

古文ドリル：「の」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「の」の正体（4用法）

古文の格助詞「の」は、受験生がもっとも識別に迷う助詞のひとつです。用法は **4種類** あり、それぞれ意味がまったく異なります。

用法	言い換え	見分けポイント	例
① 連体修飾格	(AのB)	直後が 体言 、修飾関係	春の花
② 主格	が	連体節の中・直後が 用言の連体形	風の吹く夜
③ 同格	で （～であって）	前後が 同じもの を指す・直後が連体形	白き鳥 の 、嘴と脚と赤き
④ 準体格	もの・こと・人	直後が 格助詞 （を・に・が・は）	散る の を惜しむ

識別の鉄則（置き換えテスト）

- 「**が**」に置き換えて自然 → **主格**（直後が用言連体形で、その先に体言がある連体節）
- 「**で**」に置き換えて自然+前後が同一物 → **同格**（直後が連体形、後ろに同じ体言が省略）
- 「**もの・こと・人**」に置き換え可+直後が格助詞 → **準体格**
- どれにも当てはまらない（直後が体言の修飾） → **連体修飾格**

主格・同格・準体格の3つを先に確認し、残ったものを連体修飾格と判断するのが確実です。

🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

コツ① 「の」の直後の語を見る

- 直後が**体言**（名詞） → まず **連体修飾格**（春の花／都の月）
- 直後が**用言の連体形**（動詞・形容詞） → **主格** か **同格** を疑う
- 直後が**格助詞**（を・に・が・は） → **準体格**（の＝もの・こと）

コツ② 直後が連体形るとき、「が」で訳して主語になるか

- 「風の吹く」 = 「風**が**吹く」と自然 → **主格**
- 「白き鳥の…赤き」 = 前の「鳥」と後ろが**同じ鳥** → **同格**（「で」で訳す）

- ・ 見分け：後ろの修飾句が**前の体言を説明し直している**なら同格、**別の体言を修飾**しているなら主格。

コツ③ 「の」の前後が同じものか別のものか

- ・ 同じもの（白き鳥＝嘴脚赤き鳥）→ **同格**
- ・ 別のもの（風／夜）→ **主格** か **連体修飾格**

よくある引っかけ

- ・ 「の」の直後が動詞でも、**後ろの体言を別に修飾**していれば主格（風の吹く**夜**）。
- ・ 「の」の前後が同一物なら、直後が連体形でも**同格**（赤き花の、大きなる）。
- ・ 「赤きの**の**を取る」のように直後が格助詞なら**準体格**（連体修飾格と混同しない）。

採点表

各セクションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

4用法を純粹に識別する基本問題。各用法5問ずつ。

Q1. 次の傍線部「の」を識別せよ。

春の花。

Q2. 次の傍線部「の」を識別せよ。

山の端。

Q3. 次の傍線部「の」を識別せよ。

君の声。

Q4. 次の傍線部「の」を識別せよ。

都の月。

Q5. 次の傍線部「の」を識別せよ。

人の心。

Q6. 次の傍線部「の」を識別せよ。

風の吹く夜。

Q7. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月の出づるころ。

Q8. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雪の降る朝。

Q9. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鳥の鳴く声。

Q10. 次の傍線部「の」を識別せよ。

花の散る春。

Q11. 次の傍線部「の」を識別せよ。

赤き花の、いと大きなる。

Q12. 次の傍線部「の」を識別せよ。

をかしげなる児の、二つばかりなる。

Q13. 次の傍線部「の」を識別せよ。

清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たる。

Q14. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きやかなる男の、太刀帯きたる。

Q15. 次の傍線部「の」を識別せよ。

ほそやかなる女の、髪長き。

Q16. 次の傍線部「の」を識別せよ。

散るのを惜しむ。

Q17. 次の傍線部「の」を識別せよ。

白きのを着る。

Q18. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きなるのに乗る。

Q19. 次の傍線部「の」を識別せよ。

赤きのが欲し。

Q20. 次の傍線部「の」を識別せよ。

来るのを待つ。

【第2部】 標準編 (Q21~Q50)

実際の古文に近い例文で、4用法を見分ける。置き換えテストを順に試そう。

Q21. 次の傍線部「の」を識別せよ。

秋の夕暮れ。

Q22. 次の傍線部「の」を識別せよ。

水の流るる音。

Q23. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雨の降るを見る。

Q24. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きな柑子の木の、枝もたわわになりたる。(徒然草)

Q25. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あはれなるのを見る。

Q26. 次の傍線部「の」を識別せよ。

我の行く道。

Q27. 次の傍線部「の」を識別せよ。

庭の桜。

Q28. 次の傍線部「の」を識別せよ。

星の光る空。

Q29. 次の傍線部「の」を識別せよ。

やむごとなき人の、おはしけり。

Q30. 次の傍線部「の」を識別せよ。

にほひやかなる花の、露をおびたる。

Q31. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月の都。(竹取物語)

Q32. 次の傍線部「の」を識別せよ。

黒きのを選ぶ。

Q33. 次の傍線部「の」を識別せよ。

川の音聞こゆ。

Q34. 次の傍線部「の」を識別せよ。

我が身一つの秋にはあらねど。(古今集)

Q35. 次の傍線部「の」を識別せよ。

多くの中に小さきのを選ぶ。

Q36. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鶯の鳴く。

Q37. 次の傍線部「の」を識別せよ。

高き屋の上。

Q38. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと白き犬の、いみじう大きなる。

Q39. 次の傍線部「の」を識別せよ。

海の色。

Q40. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雲のゐる山。

Q41. 次の傍線部「の」を識別せよ。

紅の衣。

Q42. 次の傍線部「の」を識別せよ。

心ざし深かりける人の、夜離れせず通ひける。

Q43. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きなるの、ふと出で来たり。

Q44. 次の傍線部「の」を識別せよ。

谷の水。

Q45. 次の傍線部「の」を識別せよ。

子の泣くを見て。

Q46. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いみじう白き扇の、いと多く散りたる。

Q47. 次の傍線部「の」を識別せよ。

旅の空。

Q48. 次の傍線部「の」を識別せよ。

浪の寄する磯。

Q49. 次の傍線部「の」を識別せよ。

青きのと赤きのと。

Q50. 次の傍線部「の」を識別せよ。

花の香。

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

紛らわしいもの、同一文中に複数の「の」が出るもの、有名作品の一節で実戦的に。

Q51. 次の傍線部「の」を識別せよ。

春の夜の**の**夢ばかりなる手枕に。(千載集)

Q52. 次の傍線部「の」を識別せよ。

世の中にたえて桜**の**なかりせば。(古今集・在原業平)

Q53. 次の傍線部「の」を識別せよ。

宮**の**内。

Q54. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鳩の海や月**の**光のうつろへば。

Q55. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月**の**光のうつろへば。

Q56. 次の傍線部「の」を識別せよ。

我**の**思ふ人。

Q57. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雀の子の、ねず鳴きするにをどり来る。(枕草子)

Q58. 次の傍線部「の」を識別せよ。

塵のつもりて山となる。

Q59. 次の傍線部「の」を識別せよ。

春日野の若菜。

Q60. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと幼き人の、文読みたる。

Q61. 次の傍線部「の」を識別せよ。

飛ぶのを捕らふ。

Q62. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鏡の影。

Q63. 次の傍線部「の」を識別せよ。

燃ゆるのを消つ。

Q64. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鶴の群れ。

Q65. 次の傍線部「の」を識別せよ。

笛の音の、いとをかしげに聞こゆる。

Q66. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雪の降りたるは。

Q67. 次の傍線部「の」を識別せよ。

唐土のもろこし。

Q68. 次の傍線部「の」を識別せよ。

小さきのを取りて。

Q69. 次の傍線部「の」を識別せよ。

男の、女のもとへ行く。

Q70. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと小さき鳥の、梢にゐたる。

Q71. 次の傍線部「の」を識別せよ。

飛ぶ鳥の声。

Q72. 次の傍線部「の」を識別せよ。

老いたるの、若きにまさる。

Q73. 次の傍線部「の」を識別せよ。

君の行く道の長手を繰り畳ね。(万葉集)

Q74. 次の傍線部「の」を識別せよ。

滝の音は絶えて久しくなりぬれど。(拾遺集)

Q75. 次の傍線部「の」を識別せよ。

花の色は移りにけりな。(古今集・小野小町)

Q76. 次の傍線部「の」を識別せよ。

うつくしきもの。瓜にかきたる児の顔。(枕草子)

Q77. 次の傍線部「の」を識別せよ。

ねず鳴きのするに。

Q78. 次の傍線部「の」を識別せよ。

黒き雲の、にはかに出で来て。

Q79. 次の傍線部「の」を識別せよ。

よきのもあしきのもあり。

Q80. 次の傍線部「の」を識別せよ。

秋風の吹きにし日より。(古今集)

【第4部】入試レベル (Q81~Q100)

難関大の実戦レベル。複数用法の混在・紛らわしい同格／主格・有名出典で総仕上げ。

Q81. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いづれの山の天に近き。(竹取物語・改)

Q82. 次の傍線部「の」を識別せよ。

中將の、いと清げにて。

Q83. 次の傍線部「の」を識別せよ。

しづ心なく花の散るらむ。(古今集・紀友則)

Q84. 次の傍線部「の」を識別せよ。

年ごろ思ひつる人の、かく心変はりせるを。

Q85. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大納言殿のまゐり給ひて。

Q86. 次の傍線部「の」を識別せよ。

白き鳥の嘴と脚と赤き、鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。(伊勢物語・東下り)

Q87. 次の傍線部「の」を識別せよ。

人の待つ里。

Q88. 次の傍線部「の」を識別せよ。

心のうちに思ふ。

Q89. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月のいとあかきに。

Q90. 次の傍線部「の」を識別せよ。

人のそしる言の葉。

Q91. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと大きな石の、おしかぶさりたる。

Q92. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鹿の音の聞こゆる。

Q93. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あやしう、この翁の歌はこれにはまさりけり。

Q94. 次の傍線部「の」を識別せよ。

命長ければ恥多し。長くとも四十に足らぬほどにて死なんの、めやすかるべけれ。(徒然草)

Q95. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雀の子のねず鳴きするにをどり来る。うつくしきもの。(枕草子)

Q96. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いみじう降る雪の、木ごとに咲きたる。

Q97. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あけぼのの空。

Q98. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あまたの舟。

Q99. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きやかなる童の、髪うるはしきの、走り出でたり。

採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は「置き換えテスト」のどこでつまずいたかを確認しましょう。

- **連体修飾格**…直後が**体言**。迷ったら最後に残るのがこれ。
- **主格**…「が」に置換でき、直後が用言連体形+その先に体言（連体節）。
- **同格**…「で」に置換でき、前後が**同じもの**。後ろに同じ体言が省略されている。
- **準体格**…「もの・こと・人」に置換でき、直後が**格助詞**（を・に・が・は・と・も）。

主格と同格の最終見分け：後ろの連体形が「別の体言を修飾」していれば**主格**（風の吹く**夜**）、「前の体言を説明し直す（同じもの）」なら**同格**（白き鳥の、嘴と脚と赤き）。

繰り返し解いて、「の」を見た瞬間に直後の語をスキャンする習慣をつければ、入試本番でも一瞬で見抜けます。

この問題集は無料です。古文の他の識別（「に」「なり」「が」など）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennosensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太